

1 開会挨拶・趣旨説明

ワークショップの開催にあたり、藤代市長から開会の挨拶を行いました。
その後、事務局から木下駅周辺のまちづくりの取り組みやワークショップの趣旨等を説明しました。



2 グループワーク

グループごとに自己紹介を行った後、「木下・大森のいいな!」及び「木下・大森らしさ」をテーマにグループワークを行いました。その後、グループごとに発表し、参加者全体に共有しました。

「木下・大森のいいな!」では、参加者それぞれの考えを付箋に書き、グループごとに話し合いました。

「木下・大森らしさ」では、グループごとに話し合いを行い、最後に全体への共有をしました。



3 地域で活動する方によるミニトーク

歴史、商業、地域内での新たな取り組みなど、地域で日々活動している方に様々な観点で木下・大森の特徴をお話いただきました。登壇者とミニトークの内容の一部をご紹介します。

木下まち育て塾 副会長



かつて木下には河岸があり、江戸で木下を知らない人はいないと言われるほど有名だった。木下から出ていた遊覧船は年間1万7千人が利用していた。大森地区の六軒は船橋に次ぐ商業地として栄えた。

印西市商工会 会長



起業創業等でチャレンジしたい人が借りられる物件のポテンシャルがある。直近の大雨で被災した会員に対し商工会会員同士が相互支援を行うなど、横のつながりと助け合いは、このまちの強みである。

古民家イタリアンaebe 店長



印西は食材が新鮮・安価で素晴らしい。田んぼの風景や人々の心のゆとりにも惹かれている。地域の方が文化財を大事にしており、年齢層を問わず地元を盛り上げようとするパワーを感じる。

木下駅前 にぎわい広場周辺の 未来を一緒に描きませんか？

第1回



木下駅圏の未来をともに描き、ともに創る

印西市では、木下駅前にぎわい広場（以下「にぎわい広場」）を起点とした、木下・大森地区などの木下駅圏の未来に向けたまちづくりの検討を開始しました。

木下・大森の将来像とにぎわい広場をはじめとする魅力的なまちの形について皆さんとともに描いていくため、「木下・大森ならではの魅力の再認識」をテーマに、第1回ワークショップを開催しました。

プログラム

1 | 開会・趣旨説明

2 | グループワーク

3 | ミニトーク

上記の他、市からの説明や事務連絡などを行いました

グループワークの流れ

①
ワークショップや参加者を知ろう



②
木下・大森のことを再認識しよう



③
木下・大森について語り合おう



開催概要

日時 令和8年9月26日（土曜日）10時～11時30分

場所 印西市文化ホール 多目的室

主催・発行：印西市資産経営課公民連携推進室

みなさまのお話の一部をご紹介します

参加者 **38**名（男性：21名、女性：17名）

平均年齢 **51**歳（16歳～85歳）

熱中できること
や集まれる場所
がない

100年以上続く
お祭りが3つも
ある

貴重な水辺も
あり、高台から
の眺望が良い！

多世代が近接し
て住んでおり、
子育てのサポ
ートを得やすい

魅力は多くある
が発信・連携が
不足している

町内外のつな
がりが多く楽し
いまちである

個人店が多く、
老舗飲食店など
もある

ほとんど毎日
地元の友達
と会う

街灯が少なく
夜間は暗い

雑で大らか
なところが
最高！

低コストで店舗
を持てる可能性
がある

人の温かさや
ゆとりを感じる

空き家や
空き店舗
が多い

骨董市や
にぎわい広場を
中心とした
賑わいがある

自然は豊かだが
若者が集まる
場所がない

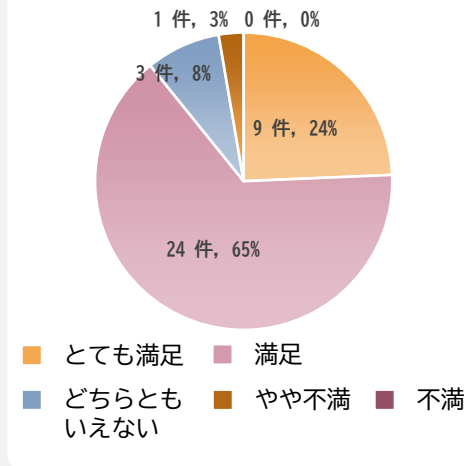
グラフィックレコード みなさまのお話を絵にしてみました

今回のワークショップでは、「木下・大森のいいな！」「木下・大森らしさ」について、みなさまの議論や発表をもとにグラフィックレコード※で視覚化しました。ワークショップの最後にグラフィックレコードを見ながら、どのような話があったかを振り返りました。

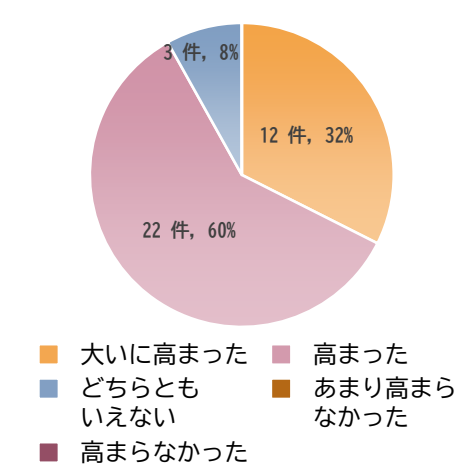
参加者アンケート（抜粋）

ワークショップの最後にアンケートを実施し、回収率は97%でした。ワークショップの満足度は「とても満足」・「満足」が9割近い結果となりました。また、地域拠点整備への関心は「大いに高まった」・「高まった」が9割近い結果となりました。

ワークショップの満足度



地域拠点整備への関心の高まり



アンケート自由記述の一部をご紹介します

- ・若者がこの地区の文化や歴史を知り、それをつないでいけるような環境づくりやコミュニティを強化できるとより良い地区になるのではないかと感じた。
- ・木下・大森に在住の人と、他地域に在住の人で木下・大森に対する意識の違いがあり、ギャップを感じた。今後これらが融合できると良い。
- ・世代を超えた話し合い、未来に向けてのワークショップ、今後の動きにワクワクする。
- ・今までの木下・大森の会とは空気（メンバー）が変わった。
- ・新たな地域拠点は、既存問題も含めて考えて行く方が良い。



グラフィックレコーダーの山田美紀さんが、グループワークで出たお話をグラフィックレコードとしてまとめ、可視化しました。



最後に、公民連携推進室長が振り返りを行いました。



※グラフィックレコードとは、グループごとの議論や発表内容を文字や図形、イラスト、色などを用いてリアルタイムまたは事後に視覚化していくものです。